

シリーズ **心臓病**

医療ルネサンス

通算3307回

心臓の筋肉に栄養を送る冠動脈が狭くなる狭心症で、胸痛を繰り返した神戸市の会社経営、石山三郎さん(65)。完全に詰まる深刻な心筋梗塞になりかねない病状だ。

成績表を公開

近くの病院で昨年一月、風船を膨らませて血管を広げる「経皮的冠動脈形成術(PCI)」を試みられたが、病変部が硬くて断念された。

その代わりに迂回路を作るバイパス手術を勧められたが、大きな手術も長期入院もしたくない。

知人の医師から、心臓病治療で定評がある小倉記念病院(福岡県北九州市)を紹介されて、遠く九州まで出掛けた。そこで見立ては「PCIで治せる」。

血管内部を削る新しい医療器具を駆使して風船で広げた後に金網の筒(ステント)を置き、血液がしっかりと流れるようになった。

心筋梗塞の最新治療

□□□4

治療施設の分散 PCI実施施設は全国で1023もあり、1施設あたり年間107件。アメリカ心臓病学会の指針では、最低でも年間200件以上の施設を推奨しているが、それを満たすのは15%に過ぎない。一方、心臓血管手術を行う約500施設のうち、年間100件以上は35%しかない。

小倉記念病院の昨年一年間のPCI実施件数は二千七百四十三件(緊急時を除く院内死亡率0.1%)、心臓バイパス手術は百九十二件(同一・2%)。ともに全国トップ

三日後に退院。今は海外出張もこなす石山さんは「医師の技術に差があることを実感しました」と驚く。

技術力の高さは、積み重ねた経験のためものだ。「死」率など危険性まで事

「ウデの差」医師にも

院長の鈴木孝彦さんは「日本は治療を行う病院が多すぎ医師が治療経験を積み、高い技術を身につけられない。治療の拠点化を進めるべきだ」と提言する。

バイパス手術やPCIなど難度が高い手術の実施件数について、国は四月から各病院に公開するよう促すことになった。胸に覚えがある病院・医師にとっては願ってもない制度だろう。患者が病院を選ぶ時代が本格的に到来する。

(坂上博)
(次は「子供の難病」です)

前に説明し、納得してもらった上で治療を行うことが、病院への信頼につながる。情報公開は当然の流れで、実力のない病院は淘汰されるだろう」と話す。

「病院が多過ぎる」

機構ハートセンター(愛知県豊橋市)は、心臓病専門病院として患者の体への負担を減らし、入院期間の短縮を心掛けている。

心臓バイパスは、人工心肺を使わず、心臓が動いたまま行ったり、開胸する傷を小さくする方法をとり入れたりして、入院期間七〜十四日を実現。PCI患者の75%は一泊二日だ。



カテーテルを使って治療する延吉正清院長(小倉記念病院で)

家庭とくらし